

ESD 推進ネットワークの可視化について：平成 28 年度試行結果報告

1. ESD 推進ネットワークの目標と可視化

ESD 推進ネットワークは、ESD の広がりと深まりを通じて地域の諸課題の解決と教育の質の向上、SDGs 達成に向けた意識・行動変革を進める、ESD に関わる多様な主体による開かれたネットワークです。

■ 「ESD 推進ネットワーク」とは

「我が国における『持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム』実施計画（ESD 国内実施計画）』（持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議決定、平成 28 年 3 月）には、全国的な ESD 支援のためのネットワークの体制整備と、「ESD 活動支援センター（全国・地方）の整備・効果的な運用が、政策的支援と地域コミュニティ関連の柱として掲げられました。文部科学省・環境省は、「持続可能な開発のための教育」（ESD）の推進に向けて、「ESD 推進ネットワーク」の構築を他の ESD 関係省庁とともに進めています。

その一環として、文部科学省、環境省は、平成 28 年 4 月には、ESD 推進ネットワークの全国的なハブとしての役割を担う ESD 活動支援センター（以下「全国センター」）を開設し、平成 29 年 7 月から 9 月にかけて、全国 8 ブロックごとに広域的なハブとしての機能を担う地方 ESD 活動支援センター（以下「地方センター」）を、北海道（札幌）、東北（仙台）、関東（東京）、中部（名古屋）、近畿（大阪）、中国（広島）、四国（高松）及び九州（熊本）に開設しました。また、平成 29 年 11 月からは、地域における ESD 活動の支援窓口である地域 ESD 活動推進拠点（以下「地域 ESD 拠点」）の登録が開始されました。

このネットワークは、4 つの目標のもとに、8 つの成果目標を掲げています。

1. ESD 活動を支援するために有益な情報の収集、整理、蓄積、共有を進める。（情報）
 - ① ESD 活動支援センター（全国センター・地方センター）が収集、整理、蓄積、共有する情報が ESD を深めるために（質的向上）、また広めるために（量的拡大）、有用なものになっている。
2. 現場のニーズを反映した ESD 活動の支援体制を整備する。（支援体制）
 - ② ESD 活動支援企画運営委員会（以下「企画運営委員会」）が、総合的な ESD 活動支援方策の検討やその実現に向けた全国センターへの指導・助言を行うための体制が整備されている。
 - ③ ESD を推進する多様な主体が参画する官民協働プラットフォームとしての ESD 活動支援センター（全国・地方）の整備が進み、ESD 活動に対する支援体制が機能している。
 - ④ 地域 ESD 活動推進拠点（以下「地域 ESD 拠点」）の創出、形成、強化が進んでいる。

3. ESD 実践の学び合いを可能とする重層的なネットワークを形成する。(ネットワーク形成・学び合いの場)

⑤ 多様な分野で ESD の認知度が向上し、また理解が進み、多様なステークホルダーの間で経験の共有、ESD 推進の協働・連携の関係性が形成・促進されるような学びの場が持たれている。

⑥ 地域の様々な課題への取組や政策に ESD の視点と手法が取り入れられていると同時に、多様な学びの場とそれを支える政策に ESD の視点と手法が組み込まれ学びの質を高めている。

4. 様々な活動、研修、学び合い等を通じて、学校教育、社会教育それぞれにおいて、また、学校、社会教育施設、大学、職場、地域等において、ESD を推進する人材の育成を進める。(人材育成)

⑦ 既存の研修等を活用し、多様な場で ESD 研修が実施されている。

⑧ 多様な分野・セクターに ESD を推進する多世代の人材が育成され、活動の場を広げている。

全国センター及び地方センターは、地域 ESD 拠点とともに、ESD 推進ネットワークをできるだけ可視化(見える化)し、関係者全体でその価値を高め、効果的な支援活動を広げることにつなげます。

2. 全国レベルの「協力組織・団体」ネットワークの可視化試行(平成 28 年度)

ESD 推進ネットワーク(見える)の可視化の一環として、平成 28 年度、全国センターは、ネットワーク可視化タスクフォース(別紙 1)を設置し、まず、全国的に ESD を推進する組織・団体に注目しました。そして、それら組織・団体と全国センターのつながりや、それらの組織・団体の取り組みや支援メニューを可視化することを試みました。

この可視化の試みに対して、平成 28 年度に全国センターがなんらかの協力・連携関係を持ちえた組織・団体のなかから、11 の組織・団体にご協力いただきました(以下「協力組織・団体」)(別紙 2)。可視化の試みへの協力とは、具体的には、質問票(別紙 3)への記入と、改善のためのコメントです。

結果の取りまとめにおいては、個別の組織・団体の特定ができないように処理することとして、3 つの表にまとめ、表中のそれぞれの欄に当てはまる組織・団体数(重複可)を記すことにしました。

これらの表から読み取れることについては、平成 28 年度及び平成 29 年度のネットワーク可視化タスクフォースで検討しました。

(1) つながりの可視化

「協力組織・団体」と全国センターがどのような連携・協力関係を持っているかを、協力を得た組織・団体の属性ごとにまとめたものです。横軸に、12種類の連携・協力関係の種類を記し、縦軸に、その他を含め6つのカテゴリーに分けた組織・団体の属性を置いて整理しました。

図1 全国レベルのネットワークの可視化（平成28年度）①つながりの可視化

可視化ツール①「つながり」の可視化													【平成28年度試行：協力団体】	
連携・協力の形態		事業協働(プロジェクトベース、時限有)										戦略協働(中長期的視野)		
属性	組織・団体数	情報提供・交換	施設・資材貸与	広報協力	マネジメント支援	事業協力	後援	共催	資金補助・委託	共同企画立案	実行委員会・協議会	戦略協働	政策協働	
		10	0	8	0	1	6	0	0	1	0	0	0	0
1. 教育関係機関・ネットワーク	2	1		1			2							
2. 学術研究機関・ネットワーク	1	1		1										
3. 地方自治体・行政	0													
4. 公益法人/NGO/NPO	8	8		6		1	4			1				
5. 企業等	0													
6. その他	0													

出現数 色分け

1~3	4~6	7~					

整理の結果、以下のことが見て取れます。

- 平成28年度の「協力組織・団体」と全国センターの連携・協力は、「情報提供・交換」が最も多く、続いて、「広報協力」、「後援」が多い。
- 「事業協力」、「共同企画立案」のケースも1件ずつある。このようなケースは、「情報提供・交換」等より、緊密な連携・協力と考えられる。
- 「協力組織・団体」と全国センターの連携・協力は、一部の形態に限られている。

(2) 「取り組み」の可視化

「協力組織・団体」が、ESDの推進に向けて、どのような課題（テーマ）を扱い、どのようなアプローチ（行動分野）で取り組んでいるのかを概観するのが、「取り組み」の可視化です。

横軸の課題（テーマ）にはSDGs（持続可能な開発目標）の17目標を置き、縦軸には、アプローチ（行動分野）をESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）を使って整理しました。

図2 全国レベルのネットワークの可視化（平成28年度）②取り組みの可視化

可視化ツール② 「取り組み」の可視化 【平成28年度試行：協力団体】

SDGs (G5)	GAP (G6)																	
	貧困をなくす	飢餓をなくす	健康と福祉	質の高い教育	ジェンダー平等	水と衛生	誰もが使えるクリーンエネルギー	ディーセントワークと経済成長	産業・技術革新・社会基盤	格差の是正	持続可能なまちづくり	持続可能な消費と生産	気候変動へのアクション	海洋資源	陸上資源	平和、正義、有効な制度	目標達成に向けたパートナーシップ	その他
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
組織・団体数	3	1	3	10	0	2	1	0	0	1	5	4	4	2	2	2	6	0
政策的支援 (ESDに関する政策的支援)	3			1	3							1				1	2	
機関包括型アプローチ (ESDへの包括的取組)	1											1	1				1	
教育者 (ESDを実践する教育者の育成)	0	2	1	2	8		2	1			4	3	3	2	2	2	5	
ユース (ESDへの若者への参加の支援)	1	1	1		1		1	1			1	1	1	1	1		1	
地域コミュニティ (ESDへの地域コミュニティの参加の促進)	4	2	1	1	4		1	1		1	2	1	1	1	1	1	3	

コメント: 教育は全ての目標に関係するもの。

出展表: 色分け 1→3 (黄), 4→6 (青), 7→ (緑)

整理の結果、以下のことが見て取れます。

- 平成28年度の「協力組織・団体」のなかでは、GAP優先的行動分野の「教育者」に取り組んでいる組織・団体が多く、それらの組織団体は、SDGsで整理した分野としては、「教育」「持続可能なまちづくり」「目標達成に向けたパートナーシップ」に取り組んでいるところが多い。
- GAP優先的行動分野では、続いて「地域コミュニティ」に取り組んでいる組織・団体が多く、この場合にも、SDGsで整理した分野としては「教育」「持続可能なまちづくり」「目標達成に向けたパートナーシップ」が多い。
- 平成28年度の「協力組織・団体」のなかでは、どの組織・団体も取り組んでいない「分野」(SDGs)が複数分野ある。

(3) 「支援メニュー」の可視化

「協力組織・団体」の支援メニューを概観するのが「支援メニュー」の可視化です。

横軸には、「協力組織・団体」が他の組織や個人に対して行う様々な支援を以下の項目に整理し、縦軸には、可視化ツール①と同様に協力組織・団体の属性をおきました。

図3 全国レベルのネットワークの可視化（平成28年度）③支援メニューの可視化

可視化ツール③「支援メニュー」の可視化

【平成28年度試行：協力団体】

属性	支援方法	組織団体数	調査・情報収集	活動展示・紹介	施設・資材貸与	活動奨励	共同企画・実施	政策コミュニケーション	広報協力実施	コーディネート	ファシリテーション	情報提供	資源提供	機会提供	相談対応・助言(活動)	問題解決策の提示	相談対応・助言(組織)	その他
			7	4	0	9	7	4	10	5	6	6	5	7	7	5	2	0
1教育関係機関・ネットワーク		2	2	1		1	1		2		1				1			
2学術研究機関・ネットワーク		1				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
3地方自治体・行政		0																
4公益法人/NGO/NPO等		8	5	3		7	5	3	7	4	4	5	4	6	5	4	2	
5企業等		0																
6その他		0																

出鏡数 色分け	1~3	4~6	7~
---------	-----	-----	----

整理の結果、以下のことが見て取れます。

- 平成28年度の「協力組織・団体」のなかでは、後援や表彰（コンテスト）等を通じての「活動奨励」や「広報協力」の形で、個人や他の組織団体に対しての支援を行っているところが多い。
- 「施設・資材貸与」以外の支援方法の項目については、複数の「協力組織・団体」が実施しており、「協力組織・団体」全体の支援方法は、多様である。

3. 今後に向けて

全国レベルの「協力組織・団体」とのネットワークの可視化試行を受けて、全国センターが今後、「ESDを推進する多様な主体が参画する官民協働プラットフォーム」として全国レベルでESDを推進する組織・団体とどのような連携・協力体制を築いていくのか検討のために活用を継続していきます。そして、可視化の方法に改善を加えながら、全国を対象としてESDを推進する組織・団体との関係構築の経年的な変化を記録していきます。

また、広域ブロックにおけるネットワークの可視化のために、地方センター、地域ESD拠点と協力します。

こうした可視化（見える化）の実践によって、関係者全体でESD推進ネットワークの価値を高め、効果的なESDの支援活動につなげたいと考えています。

別紙1 平成28年度全国レベルのネットワーク可視化の試行にご協力いただいた組織・団体

別紙2 ネットワーク可視化タスクフォース（平成28年度、29年度）

別紙3 ESD推進ネットワーク可視化（全国レベル）質問票

お問い合わせ、ご提案、その他ご連絡は以下まで
お願いします。

ESD活動支援センター（全国センター）

メール contact@esdcenter.jp

電話 03-6427-9112

FAX 03-6427-9113

別紙 1

ネットワーク可視化タスクフォースメンバー(平成 28 年度・平成 29 年度)

平成 28 年度

検討委員		
	○及川 幸彦	東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員 日本ユネスコ国内委員会委員 持続可能な開発のための教育 (ESD) 円卓会議議長
	◎佐藤 真久	東京都市大学大学院環境情報学研究科教授
ESD 活動支援センター		
	柴尾 智子	ESD 活動支援センター次長
	鈴木 克徳	ESD 活動支援センター副センター長 金沢大学教授

平成 29 年度

検討委員		
佐藤真久	◎佐藤真久	東京都市大学大学院環境情報学研究科教授
	○鈴木佑司	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長
ESD 活動支援センター		
	柴尾 智子	ESD 活動支援センター次長
	鈴木 克徳	ESD 活動支援センター副センター長 金沢大学教授

◎は座長、○は副座長

カテゴリー内 50 音順、敬称略

別紙 2

平成 28 年度全国レベルのネットワーク可視化の試行にご協力いただいた組織・団体

一般財団法人持続性推進機構

一般財団法人経済広報センター

教育協力 NGO ネットワーク (JNNE)

公益社団法人全国公民館連合会

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

全国小中学校環境教育研究会

特定非営利活動法人日本持続発展教育 (ESD) 推進フォーラム

特定非営利活動法人日本ボランティア・コーディネーター協会 (JVCA)

一般社団法人日本環境教育学会 (実施時は日本環境教育学会)

特定非営利活動法人開発教育協会 (DEAR)

公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF)

別紙 3

質問票

ESD推進ネットワーク可視化(全国レベル) 入力シート		2017年3月 ESD活動支援センター
公開の可否 (公開不可の 場合のみ チェック)	記入欄/選択項目 ※入力:組織・団体	記入欄/選択項目 選択肢の口を●に変更して選択を示してください。 プリントアウトして「印点」を入れていただいても結構です。
	Q1. 本入力の日時	記入欄 西暦 20 年 月 日
<input type="checkbox"/> 公開不可	Q2. 組織・団体の名称	記入欄
<input type="checkbox"/> 公開不可	Q3. ホームページ	記入欄 URL
組織・団体の属性情報		記入欄/選択項目
<input type="checkbox"/> 公開不可	Q4. 食組織・団体の属性をひとつ選択してください。	<input type="checkbox"/> 教育関係機関・ネットワーク
	(※択一選択)	<input type="checkbox"/> 学術研究機関・ネットワーク
		<input type="checkbox"/> 地方自治体・行政
		<input type="checkbox"/> 公益法人/NPO/NGO等
		<input type="checkbox"/> 企業等
		<input type="checkbox"/> その他[記入欄]▶_____
【実施主体のテーマとGAP行動分野】		記入欄/選択項目
<input type="checkbox"/> 公開不可	Q5:実食組織・団体の取扱うテーマを選択してください。	<input type="checkbox"/> SDG1(貧困をなくす)
	(※複数回答可)	<input type="checkbox"/> SDG2(飢餓をなくす)
		<input type="checkbox"/> SDG3(健康と福祉)
		<input type="checkbox"/> SDG4(質の高い教育)
		<input type="checkbox"/> SDG5(ジェンダー平等)
		<input type="checkbox"/> SDG6(水と衛生)
		<input type="checkbox"/> SDG7(誰もが使えるクリーンエネルギー)
		<input type="checkbox"/> SDG8(ディーセントワークと経済成長)
		<input type="checkbox"/> SDG9(産業・技術革新・社会基盤)
		<input type="checkbox"/> SDG10(格差の是正)
		<input type="checkbox"/> SDG11(持続可能なまちづくり)
		<input type="checkbox"/> SDG12(持続可能な消費と生産)
		<input type="checkbox"/> SDG13(気候変動へのアクション)
		<input type="checkbox"/> SDG14(海洋資源)
		<input type="checkbox"/> SDG15(陸上資源)
		<input type="checkbox"/> SDG16(平和、正義、有効な制度)
		<input type="checkbox"/> SDG17(目標達成に向けたパートナーシップ)
		<input type="checkbox"/> その他[記入欄]▶_____

<input type="checkbox"/> 公開不可	Q6:食組織・団体の活動に関係すると思われる「ESD」に関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)優先行動分野を選択してください。 (※複数回答可)	<input type="checkbox"/> 政策的支援 <input type="checkbox"/> 機関包括型アプローチ <input type="checkbox"/> 教育者 <input type="checkbox"/> ユース <input type="checkbox"/> 地域コミュニティ
<input type="checkbox"/> 公開不可	Q7:食組織・団体が所行っているネットワーク構築にむけた支援メニューを選択してください。 (※複数回答可) 注:「ネットワーク構築にむけた」とは、 ここでは「他団体に対しての」という意味でとらえてください。	<input type="checkbox"/> [調査・情報収集]:地域拠点としての情報収集、調査実施等 <input type="checkbox"/> [活動展示・紹介]:企画展示、視察等受け入れ等 <input type="checkbox"/> [施設・資材貸与]:会議室貸与、会合スペース貸与、資材貸与等 <input type="checkbox"/> [活動奨励]:後援・共催・協力名義、表彰(コンテスト等) <input type="checkbox"/> [共同企画・実施]:プロジェクト等の共同企画、共同実施等 <input type="checkbox"/> [政策コミュニケーション]:政策に関する学習機会提供、政策提言等 <input type="checkbox"/> [広報協力]:取組事例の情報発信、イベント等の周知協力、情報編集協力等 <input type="checkbox"/> [コーディネーション]:関連団体の活動間の連絡・調整、利害関係者調整、ネットワーク化・協働プロセス支援等 <input type="checkbox"/> [ファシリテーション]:ワークショップ等によるファシリテーション、合意形成・学習プロセス支援等 <input type="checkbox"/> [情報提供]:研修等の講師紹介、会議場斡旋、関連団体・関連イベント等紹介、潜在的資金源(助成)情報提供、その他関連情報提供等 <input type="checkbox"/> [資源提供]:人材提供(講師派遣、研修等の講師紹介)、物品供与(教材提供、その他ESD関連ツール提供)、直接的資金提供等 <input type="checkbox"/> [機会提供]:交流機会提供(協議会開催、全国/地方フォーラム開催)等 <input type="checkbox"/> [相談対応・助言(活動)]:活動への助言等 <input type="checkbox"/> [問題解決策の提示]:教材・ツール・教案等の開発支援、ESD活動ノウハウの提示等 <input type="checkbox"/> [相談対応・助言(組織)]:組織運営への助言等 <input type="checkbox"/> その他[記入欄]▶_____
食組織・団体とESD活動支援センターとの「つながり」の形態や深さ		記入欄/選択項目
<input type="checkbox"/> 公開不可	Q8: ESD活動支援センター(全国センター)と食組織・団体のつながりの形態や深さについて選択してください。 (※複数回答可) 注:これまでの実績のみ記載をお願いします。	<input type="checkbox"/> 情報提供・交換 <input type="checkbox"/> 施設・資材貸与 <input type="checkbox"/> 広報協力 <input type="checkbox"/> マネジメント支援 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 後援 <input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 資金補助・委託 <input type="checkbox"/> 共同企画立案 <input type="checkbox"/> 実行委員会・協議会 <input type="checkbox"/> 戦略協働 <input type="checkbox"/> 政策協働
<input type="checkbox"/> 公開不可	Q9:食組織・団体の取組において地域性や、特徴あるアプローチなどがあれば、記入をしてください。 (※自由記述)	<input type="checkbox"/> [記入欄]▶_____